



学校教育目標 <<本物の【あかぎの心】を育てよう>>

モッテコイ 諏訪小魂！

長崎市立諏訪小学校 校長 山崎 直人

「第27回 卒業証書授与式」

3月18日（月）春の陽射しが降り注ぐ中、諏訪小学校第27回卒業証書授与式を挙行了しました。

66名全員が一人も休むことなく出席し、世界に一枚の、自分だけの卒業証書をしっかりと手にしました。式には、ご来賓や保護者の皆さまに加え、5年生が在校生代表として参加しました。

送辞は「清水希音」さん。最高学年の姿への憧れと、伝統を受け継ぐ決意を力強く語りました。

答辞は「五島ちはる」さん。「伝説をつくる」というテーマで頑張った1年間の振り返り、特に、諏訪っ子くんちフェスティバルの「鯨の潮吹き」で成長した自らの努力と、学校全体の盛り上がりの感動を熱く語りました。諏訪小卒業生として誇りをもって新たな伝説をつくってほしいと願います。

私は、式辞の中で「ひび割れ壺」の寓話を用いました。水くみの少年が運ぶ壺の一つには「ひび」が入っているため水がもれます。そのことを苦にしていますが、少年は道ばたの花の話をするだけです。花に心が癒やされますが、ひびがなくなったわけではありません。そんな壺に少年は言います。「君のひびから水がもれていたんで、道の端に種をまいた。君が毎日水をあげてくれたおかげで、いつも花で満たされているんだよ」と。

そして、次のようなメッセージを贈りました。
「誰もが「ひび」をもっています。自分のひびを見つめ、受け入れ、生かす方法を考えましょう。壺に少年がいたように、ひびに寄り添ってくれる仲間がいるはず。また、人のひびに気付いて寄り添える人になってほしい」と。

何より大切なのは、「あるがままの自分を大切にすることです」と伝えました。



卒業生66名の未来に幸あれと願います！

修了式・離任式

3月22日（金）いよいよ令和5年度の修了式です。各学年の代表児童に修了証書を渡しました。

児童代表の言葉は、2年生の伊藤和基さん、4年生の本庄鈴乃さんです。この1年間の成長が感じられる発表でした。

私は卒業式で話した「ひび割れ壺」の話を1年生にも分かるように話しました。

新しい学年でも自分を見つめ、仲間と共に成長してほしいと心から願っています。

離任式では今年度をもって諏訪小を離れる13人が紹介され、お別れの挨拶をしました。

配付文書には
転出者名と行き先などを
示しました

私も今年度をもって諏訪小学校を離れることとなりました。また同時に、小学校教員という仕事を退くこととなりました。2年間という短い期間でしたが、とても密度の濃い、楽しい時間を過ごさせていただきました。特に、今年度は、「長崎くんち」が4年振りに復活したこともあり、町が活気付く様子を肌で感じ、諏訪っ子くんちフェスティバルも例年にない盛り上がりを見せてくれました。

教員人生最後の学校が、伝統ある諏訪小学校であったことを嬉しく、誇りに思います。

本校の教育活動へのご理解とご協力、本当にありがとうございました。お元気で！